



佐藤芳雄初代学長

「追悼の言葉」

豊橋創造大学 学長 鈴木 安 昭

佐藤芳雄初代学長のご葬儀の頃に偶然に古い写真を見つけて、奥様にもお目につけた。そこには若い佐藤先生と私が並んで、中小企業研究の先輩の諸先生とともに、写っている。豊橋創造大学の図書館に文庫が置かれている佐藤先生の恩師伊東岱吉先生もその一人である。この研究組織に佐藤先生が参加されたのは慶応義塾大学助教授時代の昭和41年であり、青山学院大学専任講師だった私と同時であった。それぞれが専門の領域を持ちながら、中小企業を研究領域に包含しているという共通点を持つことを特色としている研究組織の中で、お互いを認めてきたが、佐藤先生が会長を務められた東京都港区の中小企業振興審議会に私を加えられ、会長代理に指名されたのもその一つの表れであった。

佐藤先生の研究については門下生の高橋さんがお書き下さっているが、日本中小企業学会会長あるいは日本経済政策学会副会長を務められたことにも学会における評価がうかがわれる。そして慶応義塾大学における長い教育歴と研究者としての時代感覚が生み出したのが本学、豊橋創造大学である。

豊橋短期大学経営情報科を4年制の大学に改組発展させる計画が生まれた時に学長予定者として白羽の矢が立ったのが佐藤先生であった。大学設置の理念を定め、人を集め、カリキュラムを作成するという作業は関係者にとっては苦勞の多いことであっただろうが、その中心となられた佐藤先生の心労もさぞ重かったことであろう。起業家マインドの育成を柱とし、「創造」の名を大学名に加えるという発想も佐藤先生のものであった。今日でこそ起業家育成の重要性が社会に認められているが、出発時には全くユニークであった。平成8年4月に本学は正式に発足したが、その準備段階で病魔が佐藤先生を侵し始めた。胃の全摘手術を受けられたのが平成6年11月のことであり、全快されて開学の陣頭に立たれておられたと思われるところが、平成9年末には再度入院を要する事態となった。全快を期して療養されながらも、時には登校され、あるいは病床から指示されて大学の運営に努力されたが、遂に10年7月30日に永眠されてしまった。

志の半ばにおいて他界された佐藤先生は、さぞ無念であり、本学の前途を憂慮されたことであろう。バトン・タッチをする機会もなく後任となった私には荷の重い役職についているが、常に先生の志を押し量り、手探りしつつ、先生の無言の導きを願っている。